

議案（１）中山間ふるさと・水と土保全対策事業等に関すること

< A 委員 >

基金については、利回りを考えて定期等の金融商品を扱っているとのことだが、他の運用方法とすることは可能か。

< 事務局 >

基金の運用については、大型定期やNCDを運用しているが、基本的には運用方法については各課に委ねられていることから、県庁内部の他の基金の運用方法等を参考にしながら、当課の基金も運用しているところ。

< A 委員 >

GPIF という年金積立金を運用している独立法人がある。ここが、ESG 投資額（環境・社会・ガバナンス要素も考慮した投資活動）を昨年の倍に増やした。秋田県も「責任投資原則」に従った投資を行い、社会との「共通価値の創造」に結びつけることによって長期的に投資リターンがプラスになっていくような投資をするべきと考える。一方、ESG 投資と SDGs や農業との親和性は高いので、そのような意味においても、ESG 投資は非常に意味のあることだと思うが、このあたりはどう考えているか。

< 事務局 >

なかなか、そういった分野に詳しくはないが、農業との親和性が高いとのことなので、有効に活用できるものであれば活用すべきと考える。資金管理している会計課と相談しながら検討していきたい。

< A 委員 >

ちなみに民間企業の話になるが、東証一部上場企業においては ESG 投資を始めている、または検討している企業が約 70%となっている。ESG 投資をしているかいないかが、今は企業価値を見る上で重要なファクターになっているので、主観であるが県がやっても異論はないと思う。農業自体が ESG そのものなので、そういう視点は重要なのではないかと思う。

< B 委員 >

魅力ある秋田の里づくり総合支援事業の魅力ある里づくりモデル事業については、1つの地域に投入する事業規模としては大きいので、思い切った施策とを感じるし、事業実施中の地域もそれぞれの地域特性に合わせて事業を実施しているので素晴らしいと思う。ただし、事業名にある「モデル」とは何だろうとを感じる。事業実施期間に税金、お金を投入し、何かしらの成果が出る。それを他地域にとっても提供するような対応が必要と思う。こういう変化があった、こういうやり方を新しく生み出した、こういう交流の在り方があった、等、事業から何を学んだかということを他の地域と共有していく必要があると思う。実践から得た学び、モデル事業の何をモデルとするのか知りたい。

また、事業が完了するともう何も支援しませんではなく、集中的な支援を終えた後に息

の長い、小規模な継続した支援があるのか、事業完了後の支援の在り方について教えて欲しい。

<事務局>

県ではスタートダッシュの取組部分に支援することとしており、地域が作成する計画では、事業終了後の活動・運営予定を示してもらって事業採択を行っている。事業完了後の金銭的な支援というのは厳しい状況であることから、人的支援ということで地域との繋がりを持たせてもらって支援している部分もあるので、そういった支援を行いたいと考えている。

また、事業に取り組んでの様々な課題については、事業の報告会という形で開催し、他地域と共有したいと考えている。